

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 12月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300132
法人名	有限会社 園田福祉サービス
事業所名	グループホーム愛の家
所在地	鹿児島県曾於市大隅町月野1562-3 (電話) 099-471-2220
自己評価作成日	平成25年12月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・認知症があってもじやくで生活しているのと同じように、安心して生活出来るよう支援する。
- ・入居者と、職員が信頼関係をしっかり築き、家族と同じような思いを持って頂く
- ・職員は、認知症ケアの専門職としての自覚を持ち、常に自己研鑽を行いプロとしての支援を行う。
- ・食の安全を重視し無農薬の米と野菜を提供することで、入居者の健康を維持するように努める

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園地帯に建てられている当ホームは長年高齢者福祉に携わってきた運営者の思いがこめられた温かな雰囲気ของกลุ่มホームである。管理者・職員は常に向学心を持ち、外部研修等に積極的に参加してスキルアップを目指し、資格取得にも積極的に取り組み、現在、介護福祉士9名・介護支援専門員1名・看護師2名とほとんどの職員が有資格者で利用者にとって最良のケアを常に職員間で検討して質の高いサービスの提供が行われている。

高齢に伴う重度化を現実のものとして受け止め、協力医療機関と訪問看護ステーションとの連携により、密な健康管理が行われて本人・家族の安心に繋がっている。また、主治医・看護師・家族・職員がチームとなり利用者・家族の希望や思いに沿って最善の支援を行い、看取り支援にも取り組んでいる。

自家農園で採れた野菜や米、自家製の味噌などの食材をふだんに使用した家庭的な食事は利用者の楽しみとなっており、心と体の健康にも繋がっている。

職員の離職が少なく、家族との信頼関係も築かれて「安心しています」とのコメントが多数寄せられている。利用者の表情も明るく、活気が感じられるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼やミーティングで理念の確認を行い、日々のケアに取り組んでいる。	理念のひとつに「地域とふれあいながら社会の一員であることを認識していただけるように努めます」とあり社会で当たり前のように暮らし続けることを支援する内容の理念を掲げている。理念は朝礼時や毎月のミーティング時に確認して理念の共有と実践に繋げている。理念は玄関・ホール・職員用トイレに掲示しパンフレットにも明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者や職員は、近隣の方と常に交流を持ち、イベントにはお誘いしたりしている。利用者は症状が進み散歩時に声をかける程度になっている。	近隣とは良好な関係が築かれており、ホームで採れた野菜のおすそ分けや散歩でのあいさつなど地域住民との交流がなされている。他にも地域行事見学(夏祭り・ふれあい交流会)、小学校の運動会や発表会見学に出かけて利用者も地域の一員として地域とつながりながら生活している。また、ホームの防災訓練に近隣消防協力隊の方々の参加があり、協力関係が築かれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域に対して認知症の啓蒙に協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では常に現状報告を行い今後のサービス向上へつなげるよう努力している。	運営推進会議は2カ月に1回、民生委員・近隣消防協力隊・家族・行政等の参加で開催している。家族は交代で参加してもらっており、運営推進会議の意義を家族にも理解してもらっている。避難訓練後に運営推進会議を行うこともあり、参加者からの気づきや助言などホームの安全対策にも活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には常に市の担当が出席する。また包括支援センターとも常に交流会を行い参加している。</p>	<p>運営推進会議に毎回市担当者が参加しており、定期的にホームの実情を伝えている。また、地区連絡協議会でも勉強会や情報交換を行っている</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会を行っている。拘束委員を設定し、ミーティング時に全員で見直しを行うようにしている。(1/2M)</p>	<p>契約書に「人間としての尊厳と誇り」ということを基本理念とし、原則として身体拘束は行いませんと明記されている。身体拘束委員会を設置して定期的な検討会議を行い、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるように取り組んでいる。日中は玄関の施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を支援している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止についての勉強会を年1回行う。新入職時の研修も行う。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市の研修がある時に参加したりしているがホーム内での研修は行っていない。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約書、重要事項説明書の説明は十分に行っている。担当者会議の時も家族に不安や疑問点はないか充分に話し合う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に何回かイベントを開きご家族の参加を呼びかけ、集まったご家族に意見を聞く機会を設ける。意見はミーティング時に職員で共有し解決する努力をする。	日頃より、家族が職員に対して意見等を表しやすい雰囲気作りに努めており、面会時や電話連絡時、担当者会議、ホームのイベントなどで家族から意見、要望を聞き出すようにしている。出された意見・要望については職員間で検討して改善やサービス向上に反映させている。第三者委員も重要事項説明書に明記されており、外部者へ表せる機会も設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の申し出は聞くようにし、後回しにせず、即解決するようにしている。職員の意見は朝の申し送り時、月初めのミーティング時に出される。	日常的に毎朝夕の申し送り時や食事時間を利用しての意見交換等を行っている。また、全職員参加の職員会も毎月行い、出された、意見・提案等は業務やサービスの質の向上に反映させている。スキルアップに向けて資格取得の支援も行っており、働きながら学ぶ姿勢が職員に浸透して現在介護福祉士9名・介護支援専門員1名・看護師2名が確保されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に職員が働きやすい環境にあるかを気に掛け、労働条件なども、他の施設や、ハローワークなどに聞いて改善を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症の勉強会を始め、各種の研修会に参加し、知識や技術を高めるよう推進している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームとの交流を多く持ち情報の交換や質の向上のための研鑽を行っている。職員同士の交流は、年2回市が主催で行っている、交流会に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に自宅訪問したり、ホームを見て頂く。家族や本人の不安や疑問を十分に聞く。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に自宅訪問したり、ホームを見て頂く。家族や本人の不安や疑問を十分に聞く。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>色々なサービスを検討し、本人にとって1番適切と思われるものを選択する。家族にとって金銭的負担が少ない方法は無いかなど。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>常に家庭と同じような雰囲気の中で出来ないところだけを支援する形をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密に都営情報を共有する。家族の支援をもらえる時は十分にその支援をもらい職員は、利用者と家族を支える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り自宅訪問や、墓参り等を行い、知人に会うことも推奨している。	墓参り、自宅訪問など個々の希望や訴えに応じて関係が途切れないように支援している。また、友人・知人が訪ねやすいように明るく、開放的なホームの雰囲気作りに配慮して、馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあった利用者同士は部屋の訪問をしたり一緒のお茶を飲んだり出来るよう支援している。一緒に共同作業をすることに誘ったり孤立を避ける。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームの場合関係が終了することが少ない。入院等で退所になっても、本人やご家族の支援は続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の思いを重視し、ケアプランを作っている。	会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者の情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活や習慣等をしっかり聞く。入所時の聞き取りや、随時の訪問時に情報を集める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活を大事にし心身の状況に合わせた生活リズムを把握し支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と計画作成担当者が話し合っって計画を立てても、ケアスタッフがしっかり把握できていないと十分な介護が出来ない。現在毎月、計画に沿ったケアが行われているか、担当を中心に評価を行っている。	入居時に本人・家族の希望や意向を聞き、本人がいかに自分らしく生活出来るかを念頭に本人本位の介護計画を作成している。見直しについては日常の生活で変化があれば都度行い、変化がなくても毎月担当者によるモニタリングと家族を交えた定期的な担当者会議を実施して現状に即した介護計画の見直しを行っている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上記の評価を元に介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思いを最優先し体調の許す限り、外泊や外出の支援を行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区公民館や民生委員、ボランティアの方がたの協力を頂いたり、集落や市の文化行事に参加する。近くのレストランや、スーパーマーケット等を訪れることも楽しみにされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による、定期的な往診、急変時の往診や受診を安心して受けられる。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診はホームより同行して直接主治医との関係を築いている。緊急時の搬送先は主治医の指示ということで入居時に同意を得ている。また、訪問看護ステーションとの連携が図られ、利用者の密な健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム内の看護師は、ケアスタッフからの情報をしっかり聞き、主治医や訪問看護師に伝え指示を受けると共に、ケアスタッフへ伝達を行う。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は十分な情報を提供する。また退院後にスムーズな生活が継続できるようにHP相談員と充分情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ホームの終末期ケアに対する方針を定め家族に提示している。家族には終末期ケアに関する同意書を書いて頂く。かかりつけ医の十分な協力を貰っているが家族の意向を最優先している。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの指針を作成して入居時に説明している。入居後は身体状況に伴い主治医の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。これまでに本人、家族の希望による看取り支援にも主治医・看護師・家族・職員がチームとなって取り組んでおり「医療介護及び事前指定書に関する同意書」も作成している</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年2回救命救急訓練を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練の実施 近隣協力隊にも参加して頂いている。 その他、ミーティング時に通報装置の自主訓練を行っている</p>	<p>年2回避難訓練を行っている。訓練には地域で結成されている近隣協力隊の参加も得られ、有線放送での協力の呼びかけや外に鐘を設置するなどの安全対策がとられている。運営推進会議を兼ねることもあり運営推進委員の方々や家族も参加して外部者の気づきなどを安全対策に活かしている。また、スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人の人として接し、個人の誇りを傷つけないよう心がける。	個々に応じた声かけやプライドを損なわないような言葉かけに配慮しながら対応している。特に排せつ介助については配慮して対応している。日常の業務でも機会を捉えては話し合っって職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においても利用者の自己決定を重視する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のライフスタイルに合わせた時間の配分を行い、食事や入浴の時間を無理強いをしないように努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が希望すれば髪を染めたりカットしたりするようにしている。意思表示の出来ない利用者に対してはご家族と相談する。着たい服を自分で選んで貰う。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえを手伝って貰ったり、収穫した野菜の分別をすることで食べる意欲を引き出す。調理の準備も出来る人には手伝って頂く。	自家農園で採れた新鮮な食材をふんだんに使用して食の安全に配慮された家庭的な献立となっている。食材の下ごしらえや餅つき、そば作りなど利用者のアドバイスをもらいながら共に行っている。ときには、レストランやファミレスでの外食や、弁当持参での季節の花見、ホームでもソーメン流しや焼き肉、鍋料理などで趣向を凝らして「食」が楽しめるように支援している。また、晩酌も希望に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の量や水分摂取量を確認し、お茶が飲めない方にはお茶ゼリーなど工夫して摂って頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食と昼食後は声掛けを行い全介助の方は職員が口腔ケアを行う。夕食後は全員職員が行う。必要な方は歯科衛生士の定期支援を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人のレベルに合わせて、自立のための支援を行う。意思表示のない方もライフスタイルに合わせて時間を決めてトイレ誘導を行っている。	身体状況に問題がない限り、日中はトイレでの排せつを支援している。自立している利用者もおり、維持できるように職員のさりげない声かけや誘導で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を心がけ、水分を充分にとって頂くよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を無理強いせず本人が入りたい気持ちになるよう声掛けを行ったり動機付けを行う。	入浴好きな利用者が多く、個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。重度化している利用者には二人介助で安心して安全に入浴してもらっている。また、ゆず湯や入浴剤で温泉気分を味わえるように趣向を凝らしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室で自由に休憩することが出来る。おやつや食事の時は声掛けを行うが集積を強制はせず本人のペースに任せる。夜間眠れない時は、足浴をしたり工夫する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬の効能を把握し、確実に飲んで頂けるよう支援する。症状が変化した時は主治医に連絡し指示を貰う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の持つ、出来る力を把握し家事の手伝いをして頂く。自分の仕事を持つことで、喜びや達成感を持って頂く。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎月何かしら行事を計画し戸外に出掛けるようにしているご家族にも連絡して思い出作りという名目で参加して頂く。	個々の気分や天候に応じて、東屋での外気浴、中庭の散策、ホーム周辺の散歩などでホームに閉じこもらない生活を支援している。また、個別支援の外出や家族も共に毎月の外出レク(買い物ツアー・踊り見学・やごろうどん祭り・外食・季節の花見等)も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持ちたい方はおられるが実際使える方がいないので所持されていない。買い物には行くがホームの立替で行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話を掛けて欲しいといわれる方には、家族の迷惑にならない時間にこちらから掛けるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が集う居間は、台所と食事のテーブルと一体化しており過ごしやすい空間になっている。ただ認知症状がひどく、怒ったり、うるさい方がいた場合、不快感を招く事がある。室内の温度や湿度、空気の入換えはできる限りの努力をしている。</p>	<p>明るく家庭的で、広々としており生活感や季節感が感じられる共用空間となっている。畳の部屋もあり、食事のダイニングとくつろぎのソファに分かれて利用者はテレビを見たり、おしゃべりを楽しんだりと思いきいに過ごせるように配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間のソファはそれぞれに居場所が決まってきた。気のあった方同士での語り合いも出来ている。一人になりたい時はほとんど居室に帰られる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に本人の使い慣れたものを持ち込んで頂き、本人の部屋作りを行っている。</p>	<p>テレビ・ラジオ・タンス・ソファなどが持ち込まれ、家族の写真やお気に入りの装飾品などが飾られて居心地良く過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>職員は利用者の一人ひとりが何が解らなくなったか、何が出来なくなったかをしっかり見極め本人が不安にならないように工夫する。本人の出来る力を職員全員が把握し本人に合わせた支援を行う。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない